

ひめゆり 通信

第155号

2018年10月10日号

<http://hozanji-wel.org/>

主な目次

● 巻頭言	1
● 新役員名簿	2
● 半世紀	3
● であー移転のお知らせ	4
● 防災・危機管理活動の紹介	5
● 高齢者施設より	6
● 児童施設より	11
● 愛染寮 海への里帰り	16
● ステップアップ研修	17
● 平成30年度法人衛生管理研修会を終えて	18
● 新人職員交流会	19
● 法人研究発表会案内・編集後記	20

社会福祉法人 宝山寺福祉事業団 〒630-0257 奈良県生駒市元町2-14-8 桃李館内 TEL:0743-74-1172 / FAX:0743-74-1911

「ペルソナ・ノングラータ」

宝山寺福祉事業団理事長 辻村 泰範

好ましからぬ人物を意味するラテン語だそう。外交用語としてそのまま使われている。国際関係がこじれてくると相手国の外交特権を持っている大使や大使館員をペルソナ・ノングラータと指名して、国外退去させることがある。アメリカがロシアの外交官を追放した事件が報じられたのも古い話ではない。また外交官として受け入れることを拒否することも国際法上認められている。なぜ好ましくないのか、その理由は示さなくても良いそう。独立した主権国家にとって、好ましからぬ人物を排除する権利は国家存続のため相互に共有した基本権として認識されているのだろう。

国境を越えて物や人が自由に往来する時代になってきたとはいえ、まだまだ多くの国ではビザ（査証）が必要とされている。外国旅行では訪問先の国がビザを必要としている場合は事前にその国の大使館にビザを申請し審査を受けたパス

ポートを提示しなければ入国させてもらえない。ある意味では、一般国民レベルでも好ましからぬ人物を入国させないよう厳しく入国管理を行っているのだ。その意味では日本は国際的にも入国審査の厳しい国の一つだ。移民、難民の受け入れはもちろんのこと、外国人労働者の受け入れについても厳しく制約されている。福祉の分野に限らずこれからの日本を支える人材不足は大問題になりつつあるのだから、これを他人事にしてはいけない。

さて、好ましからぬ（ノングラータ）というなら好ましい人物（ペルソナ・グラータ）はどうか。

国とは言わず、どのような組織にとっても好ましい人物、好ましからぬ人物が話題になる。それは差別、排除の理論につながるからと腫物をさわるような気分になりがちだが、社会的包摂や共生社会

を議論する場合には避けては通れない。好ましかろうと、好ましからざろうと社会には様々な人が生きている。もともと原初的な組織は好きあった男女がくっついて構成される家族だ。ペルソナグラータの典型である夫婦でさえノングラータに転じてしまう例は毎日のように報じられている。施設や法人という組織を考えると理由もなくペルソナノングラータだというわけにはいかない。採用面接が多くなる時期になると、ペルソナグラータを見極める眼力が問われる。



平成30年度 上半期役員会報告

第一回理事会 平成30年6月12日 梅寿荘研修室

- 第1号議案 平成29年度事業報告について承認を求める件
- 第2号議案 平成29年度事業、計算書類等に関する会計監査人報告書、監事監査報告書
- 第3号議案 平成29年度決算案について承認を求める件
- 第4号議案 理事長並びに業務執行理事の業務執行状況報告
- 第5号議案 定款の変更について承認を求める件
- 第6号議案 経理規定の変更等、諸規定の変更
- 第7号議案 役員の新補充選任（監事1名、理事1名）について
- 第8号議案 定時評議員会の開催について
- 第9号議案 会計監査人の選任及び契約について
- 第10号議案 いこまこども園の定員増並びに増築計画について

第一回評議員会 平成30年6月27日 ホテルリガーレ春日野

- 第1号議案 平成29年度事業報告、決算について承認を求める件
- 第2号議案 理事長並びに業務執行理事の業務執行状況報告
- 第3号議案 定款の変更について承認を求める件
- 第4号議案 監事の選任議決を求める件
- 第5号議案 理事の選任議決を求める件

社会福祉法人 宝山寺福祉事業団 役員名簿 平成30年6月27日

総 裁	大 矢 實 圓	真言律宗管長 宝山寺住職
理事長	辻 村 泰 範	大乘滝寺住職 梅寿荘施設長
理 事	井 上 太	やすらぎの杜延寿施設長 法人財務部長
理 事	佐 伯 俊 源	種智院大学人文学部教授 西大寺清浄院住職
理 事	末 松 保 喜	児童養護施設愛染寮寮長 法人庶務部長
理 事	徂 徠 おさむ	児童発達支援いっば 平城児童センター長 法人企画部長
理 事	辻 村 万里子	いこま乳児院院長 法務省人権擁護委員
理 事	辻 村 泰 聡	極楽坊保育園副園長 法人研修部長
理 事	中 本 勝	弁護士 あすか法律事務所長
理 事	安 井 宏 一	奈良県議会議員
監 事	上 森 健 廣	奈良県信用保証協会特別顧問
監 事	谷 川 義 明	前下市町副町長

評議員	阿 部 泰 士	阿部クリニック院長 (社福)みずき会理事長
評議員	大 西 孝 浩	三郷町健康福祉部長
評議員	上 司 永 照	宗教法人東大寺 教学執事
評議員	才 村 眞 理	武庫川女子大学発達臨床心理 学研究所研究員
評議員	谷 口 誠	(社福)いこま福祉会理事
評議員	中 村 悟	わかくさ法律事務所弁護士
評議員	新 田 一 郎	宝山寺事務長
評議員	速 水 寿 夫	親和会会長
評議員	堀 内 洋 典	社会保険労務士法人フォー シーズン代表社員
評議員	宮 本 しげ子	奈良いのちの電話協会評議員
評議員	山 本 純 弥	樫の木総合法律事務所弁護士
評議員	若 原 邦 弘	奈良保健衛生社代表取締役社長
顧 問	辻 村 泰 善	元興寺住職 元興寺文化財研究所理事長
顧 問	宮 本 隆 雄	愛染寮名誉寮長
顧 問	森 宏 範	三郷町長

半世紀

中尾高章

私が宝山寺福祉事業団とご縁をいただいたのは今から五十年近く前になります。

当時、奈良市には公立で十七、私立で十二の計二十九の保育園があり、連絡機関として奈良市保育会を結成しておりました。その頃前理事長の辻村泰圓師は、極楽坊保育園々長をされていた関係で、保育会の会長をしていただいております。

また私自身子供の面倒を見てくれた母が病に倒れ、永久の別れになり五才と二才の子供を極楽坊保育園に保育をお願いすることになりました。

それからのご縁で元興寺弁天会にも入会させていただきました。

この会は毎月十七日午後六時から元興寺の弁天様にお参りしたあと、食事やお酒をいただきながら「談論風発」いろいろなお話をききながらの楽しい会です。

私も色々と社会勉強させていただきました。メンバーは社会の重鎮の方々約二十数名が登録されておられました。

この会ももちろん泰圓師の発案で出来た会であり現在も続けられています。

その席上泰圓師は、「これからは高齢者問題が大きな社会問題になる」と今

の『梅寿荘』計画をヨーロッパの実態をまじえながらさかんに皆さんに説明されておられました。

ちなみに老人福祉法が制定されたのは昭和三十八年ですから法律制定日からまもないころの話です。当時高齢者比率は六%前後、特養的な施設は全国で一か所、老人ホームは養老院という名前で奈良県にも何か所ありましたが、そのような時代に泰圓師はまさに先見の明があったのだと思います。

それからは泰圓師とは仕事上のことは勿論お酒の席上やゴルフにスキーにと色々ご一緒させていただき、私が五才の時異国の地で戦死した父親のかわりのように慕いながら楽しいおつきあいがありました。またこんなこともありまして。

子供二人を元気に卒園させていただいてしばらくしたある日、「中尾さん愛護会（保護者会）で色々お世話になったお礼や。つまらんもんやけどもらってくれるか。」それは「無一物元興僧坊泰圓」とあざやかにしたためられた一枚の色紙でした。「無一物とは縁起のわるいような言葉やけど人間この心が大事やで」と添えられました。私は今でも大事に自分の部屋に掲げています。

悲しい別れがありました。それから五十年今や宝山寺福祉事業団は事業費三十数億円を超える大きな事業団に発展し地域の福祉に大いに貢献されております。

これはやはり各施設をあずかる施設長を始めとする職員の皆様方のたゆまぬ努力のためものと思います。

泰範理事長も近畿はもとより全国レベルの福祉関係の要職につかれて全国的なリーダーとして活躍されておられます。

元興寺は世界遺産に認定され、おそらく泉下の泰圓師も「ほうよくやつとるな」とご満足のことだろうと思います。

今後も泰範理事長のリーダーシップをもとにこの法人が、地域の福祉のよきところとして大いに発展活躍されん

ことを心より祈念しております。

最後になりましたが、私の退任にあたり記念品として大矢實圓管長様から心のこもった墨痕あざやかな軸「松樹千年翠」をいただき感激しております。今後家宝として大事にたのしませていただきます。

長いあいだありがとうございました。

(元法人監事)



奈良県発達障害者支援センターでいあー

開 所 式



開所式理事長挨拶

奈良県発達障害者支援センター
 でいあー 移転のお知らせ
 新たな場で
 センター長 森山 貴司

7月20日田原本町の奈良県リハビリテーションセンターにおいて、奈良県発達障害者支援センターの開所式が行われました。法人の園長、センター長はじめ関係機関の方々の出席のもと辻村理事長のあいさつから始まり、病院院長や県から祝辞を頂きました。発達障害を持つ方々の支援をするために県より委託されたでいあーは、今年で設立13年となり、事業を進めてきました。その間相談や支援の増加によって現体制では支援が厳しくなり、ここ数年は県に現状打開の改善策を求めています。そんな中、発達障害者支援法が改正され、より身近な支援を行うことや関係機関との連携が求められるようになりました。そこで移転を含めた改善案が県から提示され、でいあーは、田原本町にある奈良県障害者総合支援センター内に設置されることとなりました。

新たな事業として、2つあります

一つ目は県内の市町村で相談ができるような窓口システム作りです。これは今まででいあーに集中して発達障害の相談を、各市町村でも対応できるよ

うにしていくことが必要であるとのことで、五か年をかけてそのシステム作りを行っていくという事業です。

二つ目は、支援者のサポートの充実です。現在、発達障害者への支援においては専門性の確保と連携のコーディネート充実させていくことが求められています。互いに福祉、教育、医療、保健、就労等において迅速に情報交換できるつながりを作り上げていくことが必要であると思っています。

6月の終わりに、法人のセンター長はじめ多くの方々にお手伝いを頂き、仔鹿園からの引越しを行いました。事務所は少し広くなり職員も5名から8名に増えて活気がみなぎっており、新たな環境に早く慣れようと皆日々努力しております。今まで引越しの準備で滞っていた業務も少しずつ解消しつつあり軌道に乗る日も近いと思っています。長年仔鹿園に拠点を置いて県内の支援にあたってきましたが、これからは奈良県中部に活動の拠点を移して県内各地の支援を行います。

これからも当センターの事業を見守っていただき、ご協力とご支援をお願いいたします。

〒636-1039
 奈良県磯城郡田原本町多722番地
 (奈良県障害者総合支援センター内1階)
 TEL: 0744-3218760
 FAX: 0744-3218761
 E-mail: deardeer@hozani-j-wel.org
 ホームページ: http://deardeer.hozani-j-wel.org/



開所式にて職員紹介

防災・危機管理活動の紹介

委員長 梅寿荘 松岡 利和

法人では以前から防災担当委員がいましたが、今年度からは「防災・危機管理委員」に改称しています。活動について、担当委員長から発信します。

6月18日朝、大きな揺れを感じてまずは「普通じゃない」と頭に浮かびました。「大阪府北部地震」の発生です。発生直後の法人各施設の状況を想像します。入所の施設では、施設内にいる利用者の安否や施設自体の安全確認に動き回ったはずですが、通所の施設では、これから利用者を迎えようとする時間帯で、同様に様々な確認・連絡をおこない、どの施設も混乱の様相を呈していたのではないのでしょうか。幸い利用者や施設に大きな被害は発生していませんでしたが、今度は交通機関の混乱によって勤務予定の職員が来られないという事態が多発しました。そもそも連絡しようにも電話がうまくつながりません。当日は非日常の事態に追われ、余震に対する緊張感で1日を過ごし、ぐったりと疲れたことを覚えています。

普段、火災訓練や避難訓練など災害に備えた活動をどの施設でも実施していますが、この地震はいくらかの想定外の事態をもたらしました。被害状況を法人全体でとりまとめ（枠内参照）、この経験を今後活かそうということで職員へのアンケート調査を実施しました。アンケートの詳細は誌面の都合上割愛しますが、職員たちから災難に直面した実体験に基づく貴重な意見をたくさん集めることができました。各施設あるいは法人全体で有効活用して今後の災害対策に活かしていきます。

さて、地震のことを整理し終えないうちに、「平成30年7月豪雨」が始まりました。平成で最大の豪雨災害となり、200名を超える死者・不明者が発生しました。法人内の施設でも一部で水害を被りましたが、西日本各地、とりわけ広島と岡山の被害が甚大でした。法人として各団体を通じての支援をおこないましたが、法人独自にできることの1つとして義援金集めに取り組みました。法人内の各施設に発信し、職員を中心に関係の皆様にもご協力いただきました。8月23日には集まった義援金総額21万5394円を届けに奈良県共同募金会（奈良県社会福祉総合センター）を訪れ、皆さんの思いを代理してお渡しさせていただきました。（写真参照）

2018.6.18 発生大阪府北部地震による 法人の被害状況まとめ

- 【直接の人的被害】⇒なし
- 【直接の建物・設備の被害】⇒軽微なもの1件
- 【間接的な人的影響】
 - ⇒利用者の欠席・キャンセル約120名
 - 職員の欠勤13名
 - 職員の遅刻25名
- 【間接的な建物・設備への影響】
 - ⇒エレベーター設備の不具合4件
 - 電話回線の不具合2件
 - ガス設備の不具合1件



奈良県共同募金会にて

この夏は「危険な暑さ」が非常に多く、前述の災害以外に台風の脅威もありました。当法人では、入所・通所をはじめ様々な形態で、多くの利用者に関わっています。乳幼児や高齢者など支援を要する方ばかりであり、多くの事業所でこの方たちが来所・滞在している時間があり、法人の管理責任は最高水準にあります。様々な災害・危機に対して、利用者の安全を守り、大勢の方の生活に直結する法人の活動が停滞・中断されないことを目的に防災・危機管理活動をおこなっていきます。

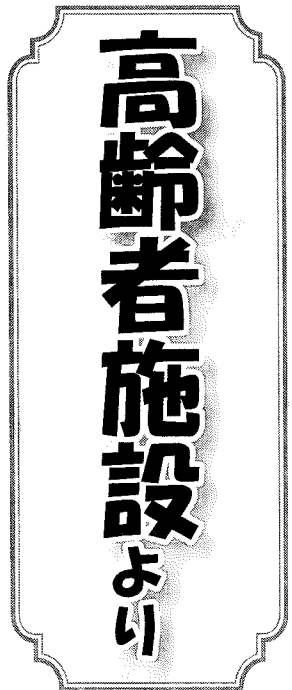
デイセンター寿楽

新たな取り組み

主任生活相談員
中島 淳

今年度は介護報酬改定に伴い、通所介護の分野では基本報酬単価が下がってしまいました。事業所としては厳しい内容となってしまいましたが、利用者に対して専門的なサービスを提供させていただく事で新たな加算を算定できるようにもなりました。デイセンター寿楽でも加算を算定させて頂くに相応しい専門的なケアが実践できる様に努めています。いつも法改定の度に「もううんざりだ」と思うのですが、うんざりと言えば、今年の夏は毎日の様に猛暑日が続いてうんざりしたのは私だけではないと思います。しかし、利用者の皆さんは暑さで体調を壊す事なくこの記録的な暑さの夏を乗り越えてもらえました。そこには、家族や担当のケアマネジャーを中心にご利用者に関わる人達が密に連携し、少しの異常も見逃さないといった包括的な支援に私たちも加わる事が出来たと実感しております。

さて、デイセンター寿楽では今年度より施設内外の研修へ積極的に参加する事で介護スタッフの専門性を高めて行き、脳トレや個別機能訓練を充実させる事で、自立支援に向けたサービスの質向上へ取り組んでまいりました。また、デイセンター寿楽の特色や取り組みなどを地域へ発信して行くべく、パンフレットも一新し、ご好評も頂いております。事業所外の取り組みとしては梅寿荘デイセンター、デイセンター延寿の相談員と定期的に会議の場を設けて法改定への理解を深めたり、各デイサービスの特色を地域へ発信して行く為の取り組みや、デイサービス職員のマナー向上への研修企画を立案しています。今後、さらに求められる地域や個別のニーズに対して柔軟に対応でき、質の高いケアが提供出来るデイサービスを目指したいと思います。



新しいボランティアの慰問も増えました！



梅寿荘居宅介護支援センター

医療と介護の連携

介護支援専門員

小出 弘美

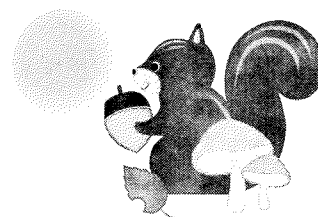
これまでもお伝えしておりましたが、このところ介護保険では医療と介護との連携を進めております。入院された先から在宅に戻られる際に、切れ目のないケアを継続して受ける事が出来、安心して在宅生活を過ごしていただけるように努める為です。

介護保険の利用者は皆医療機関にかかっておられる事がほとんどです。その為医療と介護との連携が今まで以上に必要になっています。医療介護がそれぞれお互いに顔の見える関係、情報の共有が出来る事で、その方一人一人に合ったケアを皆で考えていける事につながります。

当事業所でも、医療との連携の研修を行い、白庭病院・東生駒病院より地域医療連携室の方々による「地域包括ケア病棟・回復期リハビリ病棟・障害者病棟」のお話を聞かせていただきました。在宅生活での自立支援を行っていく中で、ご家族の介護負担も大きな問題であり、ショートステイ等介護保険でのサービスはもちろんありますが、介護負担軽減のためのレスパイト入院など医療機関に相談する事もあります。介護サービスのみならず、医療と連携を図りながらその方にあったものを共に考えていくことが大切です。研修会では、普段なかなか聞けない疑問や質問を受けていただき、ケアマネジャーにとって相談しやすい関係づくりになったと思います。これからも、介護・医療などいろいろな関係機関と連携を深めていければと思っています。



退院前家屋調査立ち合い
～病院関係者と住環境・サービスの検討を行う～



生駒市梅寿荘地域包括支援センター

連携と協働

センター長

岩井 香奈子

生駒市内の6つの地域包括支援センターでは、普段は担当圏域においてセンター単位で総合相談や介護予防ケアマネジメント業務等を行っています。それ以外に各所属を超えて専門職が集まり、地域包括ケア推進課と連携し「介護予防部会」「主任ケアマネ部会」「権利擁護部会」の3部会で活動しています。

上半期「介護予防部会」では、居宅介護支援事業所のケアマネジャーと共に協力して話し合い、総合事業につ

いての研修会を企画しています。「主任ケアマネ部会」ではケアマネハンドブック改訂について追加内容や介護保険改正後の変更点等検討し、ケアマネ業務が円滑に実施できるよう会議を重ねています。また「権利擁護部会」では、認知症時期別対応マニュアルの作成に向けて資料や文献を調べ、知恵を出し合うことで自分たちも知識を広げていく機会を得ています。

日々の業務は高齢者人口が増加していく中で厳しい現状もありますが、上半期はこれらの活動に力を注ぐことがケアマネジャーや地域の関係機関等と連携を深めていくことに繋がっていることを実感しています。それぞれの部会で下半期での完成を目指していきたいと思ひます。

梅寿荘デイセンター

皆様がより一層活動していただくために

介護士

鹿谷 和弘

梅寿荘デイセンターでの上半期の取り組みといたしまして、個別機能訓練（リハビリテーション）に積極的に取り組むことを目標に活動を続けてきました。

梅寿荘デイセンターでは、毎週土曜日に作業療法士による個別機能訓練を実施しています。しかし、「週に1回だけの運動では力はずきにくい」という意見を参考に、土曜日以外の利用日であっても運動器具等を今まで以上に活用し、体を動かしていただく時間を増やしてきました。また、運動器具を使わずに、普段の体の動きを本人様の力を使っていただくことも積極的に取り組んできました。

実際に私たちが取り組んできた運動の例としては、平行棒を活用して杖や歩行器を使わずに歩行を行い足腰の強化を促す運動や、ブーリーという運動器具を活用して、肩周りを動かす運動を行いました。また、椅子から立ち上がる際に机を持って本人様の下半身の力を使用して立ち上がって頂くことなど、本人様に備わっているADL(日常生活動作)の改善に取り組んでまいりました。

この取り組みの成果なのか、梅寿荘デイセンターに来所された当初の状態よりも、現在では本人様のADLが向



運動機器を使用し楽しく運動されています

上している方がいらっしゃいます。本人様のADLを維持するだけではなく、当初の状態よりもADLが向上するという事は大きな成果であると感じています。今まで出来なかったことや、やりにくかったことが出来るようになるという事は、私たち職員にとって嬉しい事であり、本人様や家族様にとっても嬉しい事なのではないかと思えます。

最後に、これからも梅寿荘デイセンターでは機能訓練を積極的に取り組んでまいります。ただ単に活動するのではなく目標を持って活動して、本人様だけでなく、私たち職員も日々の体調に気を付けながら、皆様の活動の支援を行ってまいります。

デイセンター憩の家

ご家族との繋がりを大切にしたい

生活相談員

友國 和之

6月にも家族交流会認知症研修会を終えました。研修では家族様がたどる4段階の心理的ステップで、初期症状が現れた時の戸惑いの気持ちや、混乱期、割り切りの時期を経て受容に移行する内容を資料を基にお話をさせていただきながら、研修にご参加のご家族が抱えられている気持ちと照らし合わせました。ご参加くださったご家族は、皆様ありのままお話しして下さり、そのステップの段階は本人の状態や介護者の体調によっても変化し、いつも同じ状態ではない事もご家族から教えていただきました。

次回9月には認知症症状と医学の基礎知識を研修資料を基に行う予定にしております。私にどこまでご説明できるのかわかりませんが、研修で習ったことをお伝え



交流会研修会の様子

していこうと考えております。

ご家族の中には、ご本人の入所や入院によって、ご利用が中止されている方もおられますが、ご家族への研修会や、その他の交流会へのご参加のお声掛けは続けていこうと考えております。ご家族がなされてきた大変な思いや経験は、憩の家や地域が理解を深めるための力になるのではないかと考えております。

はあとぼーと梅寿荘

ハッピー・ラッキー・シアワセ

主任

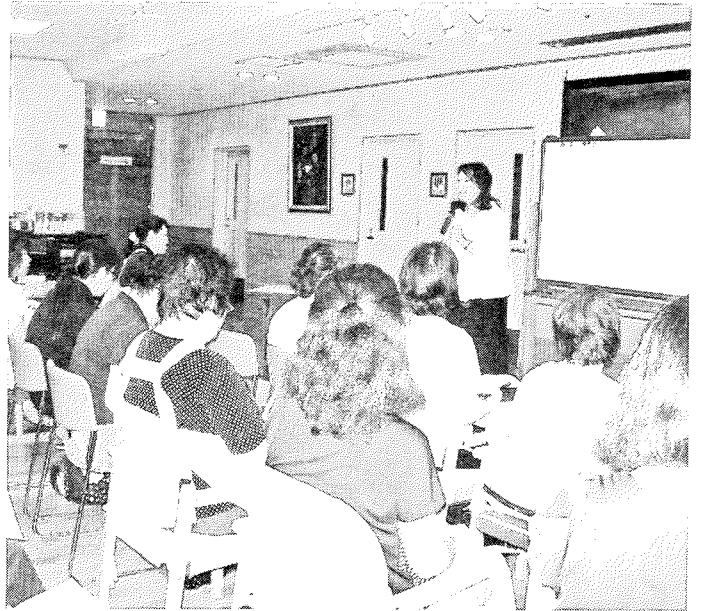
金田 智子

私達はあとぼーと梅寿荘の職員は毎月研修を実施しています。今回は、昨年も実施したメンタルヘルスの研修を、はあとぼーと延寿と合同で、坂本弥生先生をお招きして講演して頂きました。

ストレスが原因の心筋梗塞や癌の死亡は二月・八月が多く危険月という言葉から講演は始まり、殺人鬼になることもあるのでストレスの解消が大切だと話されました。私達対人援助を仕事としている者には、人間関係の悩みも多くストレスの対処法を教えてくださいました。

アサーティブトレーニングという方法で、相手に言いにくいことをきちんと伝える「みかんでいいな」を頭文字に「見たまま」「感じていること」「提案し」「イエス」「否への返事」を心がけて話をするとう良好な人間関係を導くことができるそうです。主語を私メッセージにすると、相手に伝わるという表現を学び是非実践していこうと思いました。具体的な例では、「ドラえもん」に登場する静香ちゃんの話し方を参考にするとよいそ

うです。また、笑顔の筋肉を鍛えると、心も強くなり、セロトニンのスイッチが入るそうです。先生は、寝る前・朝起きた時にハッピー・ラッキー・シアワセと唱えてメンタルトレーニングをされていると教えて頂きました。私たちも、ストレスと上手に付き合い仕事に励みたいと思います。



はあと延寿と合同研修風景

延寿

夏の思い出

介護士

上平 昇兵

7月21日(土)に、第18回目の夏祭り、通称「宝延祭」を開催致しました。宝延祭は例年、昼と夜の2部制で開催しています。昼の部では人形すくいや輪投げといった、昔ながらの遊び縁日をご利用者の元を巡ります。夜の部では屋外にて、お好み焼きや焼き鳥、生ビールに缶酎ハイ等の食べ物屋台、射的や人形すくいの遊び屋台を出店し、職員による出し物や、盆踊り、恒例の打ち上げ花火を準備して、ご家族やご友人、地域の方をお招きしています。

今年の夜の部は、隣接する南山手台自治会様と数年ぶりの共同開催となったこともあり、ご利用者、ご家族、地域の方々、ボランティアの皆様で、総勢600名近い方がご来場下さり、会場を大いに賑わせていました。そんな中我々職員も楽しい時間を過ごすことができ、平成最後に皆様との夏の思い出が、また1ページ増えました。

当日ご協力下さいました南山手台自治会様、屋台やご

利用者に付き添い下さったボランティアの皆様、お忙しい中足を運んで下さったご家族様、月並みではありますがこの場を借りてお礼申し上げます。誠に有難うございました。

来年は平成から新しい年号に変わりますが、延寿は変わらず今後も、楽しいイベントを企画・運営し、積極的に地域交流、地域貢献に取り組みたいと考えています。



写真は延寿イケメン職員による漢(おとこ)神輿、神輿の上は当日誕生日の職員

梅寿荘

笑顔の花が満開

事務長

東口 謙

7月2日と3日の2日間にわたり、梅寿荘1階ホールにおいて「七夕祭り」を開催しました。1日目は、養護老人ホームと特養あじさい・ひまわり、さざんか・すいせんの入居の方々のご家族様（合計48名）が、2日目は、特養パンジー・コスモス、サルビア・カトリアの入居の方々のご家族様（合計32名）が参加され、天空のロマンに思いを馳せていました。

8月9日には、多くのボランティアの皆様や法人内他施設職員のご協力を頂き、「梅寿荘夏祭り」を開催しました。辻村特養施設長の挨拶に始まり、愛染寮童笑クラブの和太鼓演奏、セイントゴスペルワイアのゴスペ



「アニマルセラピー」で笑顔の花が満開

ル合唱、参加者全員による盆踊り、生駒笛吹クラブのリーコーダー合奏、奈良交通お笑い同好会の漫談と歌謡ショーで会場は大いに盛り上がりました。また、玄関前周辺では、焼きそば、ねぎ焼、フランクフルト、当て物などの屋台が参加者のお腹を満たし、真夏の夕暮れを満喫しました。

8月12日は、梅寿荘関係物故者の霊を供養する「お盆供養」を、滝寺住職ほか4名の僧侶の荘厳な読経の流れの中、参加者が焼香を行い、厳かに執り行いました。

今年から新たに始めました「アニマルセラピー」をご紹介します。これは動物とのふれあいを通じた生活の質の向上を目的とする動物介在活動で、職員の飼犬数頭をコンパニオンアニマルとして要請し、入居者の希望者との「ふれあい」を行っています。第1回は6月30日、2回目は8月25日で、回を重ねるごとに参加者が増え、笑顔の花が満開となっています。



「夏祭り」理事長も自慢ののどを披露

あくなみ苑

夏祭りの早朝準備

相談員

辻野 勝久

今年も予想通りの猛暑となりました。炎天下にいただけで汗が流れフラフラしてくる程の暑さでした。その中で、夏祭りの準備を行う事は熱中症の危険もあり夏祭り前日は朝の5:00から準備を行いました。実は、先に夏祭りを開催した延寿が前日準備で早朝から行った事を聞き、それは「妙案」とあくなみ苑も早朝準備をする事にしました。日の出と共に作業を開始。準備は大変な作業ではありますが、早朝の涼しい気候という事もあり作業が非常に捗りました。毎年、夏祭りの準備は暑さとの戦いでもありましたので、もっと早くから早

朝準備をしていればと思ったくらいです。しかし、AM 9:00を過ぎると作業速度が徐々にペースダウンとなる程暑くなってきましたが、早朝からの涼しい状態での作業は非常にハイペースで行う事ができ、昼過ぎには前日準備が完了しました。ただ、早朝出勤という事も非常に疲れきった状態で準備に関わったスタッフは帰路へ向かい、私は帰宅と共に倒れるように眠る状態でした。が、「早起き」「日の出」「適度な運動」「多量の発汗」と“癒し”や“運動”を体験でき、健康維持にはもってこいの早朝準備となりました。

宮北実行委員長の下、今年をあくなみ苑夏祭りは、盛大にそして無事終える事が出来ました。夏祭りに協力して頂いたすべての皆様、本当にありがとうございました。

仔鹿園

酷暑に負けず

主任

稲田 桂子

紅白の提灯に灯がともり、お地蔵様に合わせられる小さな手、大きな手。

7月28日に上半期のメイン行事、夏祭り・地蔵盆がありました。

係の先生を中心にパネルシアター等、例年通りの準備を進めていました。が…

前日、記録的な暑さと近づいてくる台風12号の影響を考慮して屋台や食事場所等を急遽、空調のある屋内に変更しました。こんな時に発揮されるのがチームワーク。

「仔鹿園の夏祭りを楽しんでもらいたい!!」という思いで一致団結!

そして当日、太鼓と共に忍者が登場し♪忍たま音頭の盆踊りで無事、幕を閉じました。

事後のアンケートでは「冷たいそうめんが美味しかった!」「夏のいい思い出になった」「先生たちの出し物が面白かった」等の感想を沢山頂きました。



天気予報とにらめっこしながらの開催でしたが皆さんにご好評を頂きほっと致しました。



見守られて

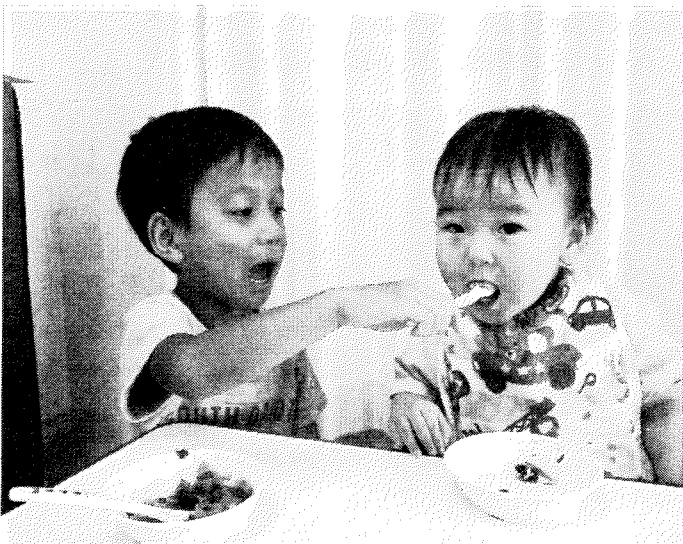
あすかの保育園

おおきくなあれ!

保育士

内田 妙子

“炎暑”と呼ばれた今年の夏。大人たちがバテそうな日々の中、子どもたちは毎日元気いっぱいでした!あす



「あ〜ん」おいしいね!!

かの保育園の夏の大きな行事には、5歳児クラスあおぐみの合宿があります。今年も、あおぐみさん19人が先生たちと生駒山麓公園で1泊しました。キャンプファイヤーには天狗さんがやってきました。あすかの保育園の近くにある王龍寺に住んでいて、いつも子どもたちを見守ってくれている天狗さんです。そんなドキドキワクワクいっぱいプログラム、そしてお家の人と離れて過ごす夜を越えて、ぐっと成長したあおぐみさんでした。

また、夏季保育中には赤ちゃん当番があります。0~2歳児クラスにそれぞれ2人ずつのあおぐみさんが来て、食事や着替えのお手伝いをしたり一緒に遊んでくれたりしました。「イヤイヤ」真っ盛りの小さな赤ちゃんたちですが、あおぐみのお兄ちゃんお姉ちゃんがお世話をしてくれると、なぜかいつもは嫌う野菜をパクっと食べたり、お布団でトントンされてすぐに眠ったり…。担任がいつも驚いてしまうほどです。あおぐみさんの、小さいけれど頼もしい手に、大きな大きな力を感じます。

園庭に赤とんぼが飛ぶ季節がやってきました。毎日の生活の中で、たくさんの経験をして心の根っこを太らせていく子どもたち。3歳児や4歳児の憧れであるあおぐみさんは、運動会をはじめとしていろいろな行事でまた活躍してくれることでしょう。

いこま乳児保育園

楽しかった夏

保育士

田中 結香

夏の行事として乳児保育園では、プール・感触遊び・夏祭り・川遊びを行いました。2歳児クラスでは滝寺キャンプ場周辺の川へ行きました。散歩に以前からよく行き、サワガニを探していたこともあり、川でカニさん見つける」と、とても楽しみにしている子ども達。川に入ると「冷たい」と言いながらプールとは違う水の冷たさを感じたり、石を拾い水面に落とし「ポチャン」という音を楽しんだり、「カニさんどこかな?」と保育士と一緒に探し、バケツに顔を覗き込みカニを観察していました。保護者の方がお迎えに来た時には、一番に「川行ってきた」「カニさんみつけたよ」とその日の出来事を嬉しそうに話している姿が見られました。後日持ち帰ったカニを「どんな動きをしているかな?」とカニの動きを真似し、「カニの手と足は何本あるかな? どんな色しているかな?」と観察し、発砲スチロールに色を塗り、体に見立て、散歩で拾ってきた枝を手と足にして、カニを作りました。子ども達は写真をよく見て自

分が思うカニを表現していました。カニは川に返してはいないけれど、子ども達が作ってくれたたくさんのカニが部屋を賑わせてくれています。

今年の夏は暑い日が続きなかなか外に出て長時間遊ぶことが出来ませんでした。合間を見て外に出て水分補給を十分に摂り元気にこの夏を過ごすことが出来ました。また様々な行事での経験から子どもたちのいつもと違った表情を見ることができ、新たな発見を共有することができました。今後も様々な経験ができるような保育を進めていきたいと思ひます。



カニさんみつけた!

奈良県発達障害者支援センター であー

発達障害特性の学びを深める

相談員

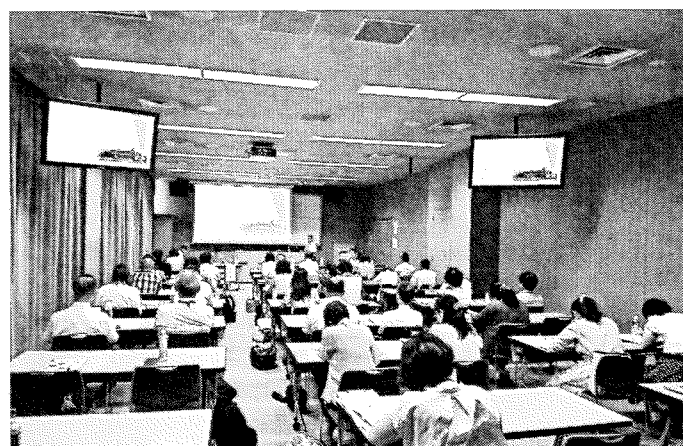
長尾 知草

であーでは、毎日のように新規の相談の電話がかかってきます。「対人関係が上手くいかない」「暗黙のルールがわからない」「耳から聞いた指示で動けない」…等、その当事者の方の悩みも様々なように、その特性も人によって様々です。であーでは今年度、発達障害に関する講演会を今までに7回実施しています。8月末には立命館大学の岩井栄一郎先生をお呼びし、「発達の気になる学生へのかかわりを考える」というテーマで大学・福祉の関係者等を対象とした講演会を行いました。「気になる学生」の就労に向けて、どのような関わりをしていけば良いのか、各機関の観点からも詳しいお話を聞くことができました。

「発達障害」について知識を深めていく内に「それなら自分も発達障害ではないか」「あの人もこの人も…」という考えが出てきます。発達障害の特性は程度の差はあれども誰にでも少なからずあるものだと言われて

います。ですが、その分「障害」という理解も得られにくく、「怠けている」「育ちの悪さ」等として捉えられがちです。その当事者の方、又は子どもはとても“頑張っている”姿を十分に理解して関わり、その方の特性にとって配慮がなされた環境づくりを考えていきたいと思ひます。

今後も、一人でも多くの当事者の方が身近な地域の配慮がされた環境下で充実した生活ができるように、であーでも講演会等の啓発活動を行い、参加者の方々と共に私もまだまだ学んでいきたいと思ひました。



シンポジウムの様子

こども支援センター あすなろ

あすなろの集い

主任保育士

佐伯 佐知

こども支援センターあすなろでは、毎年、保護者のための勉強会を開催しています。

三十年度は、奈良女子大学から狗巻修司先生に「年齢における社会性の育ちと関わり方」というテーマでご講演いただきました。乳児期に物や大人との関係性の中で、大人の共感的な関わりが重要であること。一歳半頃から自我が誕生し自分の思いを大人が言語化してくれることやまねっこやごっこ遊びがイメージする力や言葉の世界を広げていく事ができる大切な遊びであること。2～3才頃の自我の拡大期（イヤイヤ期）には、子

どもが自己主張ばかりしているように見えるが、実は大人の様子をよく見ていて自己を抑制する力も同時に養っていること。6歳頃には、他者の心の状態をなんとなく推測できるようになること。等社会性の発達の道筋をわかりやすくお話していただきました。

又、コミュニケーションの困難さを抱える子どもへの働きかけとして、子どもが興味ある世界に大人が入り共感する経験を積む事。集団活動では、参加しない子どもに対して、子ども自身が見て理解し、よし自分もやろうと思うタイミングまで「待つ」という事が重要な支援方法であるという事や、こだわりを活かした支援をするという視点を変化させて考える良い機会を私たち保育士も頂きました。

あすなろの職員は、これからも子ども一人一人の育ちについて、保護者の方と一緒に考え前に進んだり、立ち止まったり焦らずに歩いていきたいと思えます。

いこまこども園

上半期のよもやま話

副園長

西浦 正翁

月日が経つのも早いもので、平成30年度がスタートして6ヶ月が過ぎました。4月当初、保護者に送られ、帰って行く後姿を見つめながら泣き叫んでいた乳児も、今は笑顔で「バイバイ」と手を振れるまでに成長しました。

園児は日々の集団の中で、仲間とのかかわりや園行事での経験、自然とのふれあいなど「ひと・もの・こと」の中で大きく発達・成長していくのだと思えました。

5月遠足では、幼児組は「生駒山遊園地」に行きました。お天気にも恵まれ他の小学校・保育園などの団体も多く、屋外広場では混ざり合いながら園児たちは思いっきり走り回り、楽しんでいました。

6月に入り、5歳児は近畿大学農園において、さつまいもの苗植え体験をさせていただきました。食育とし

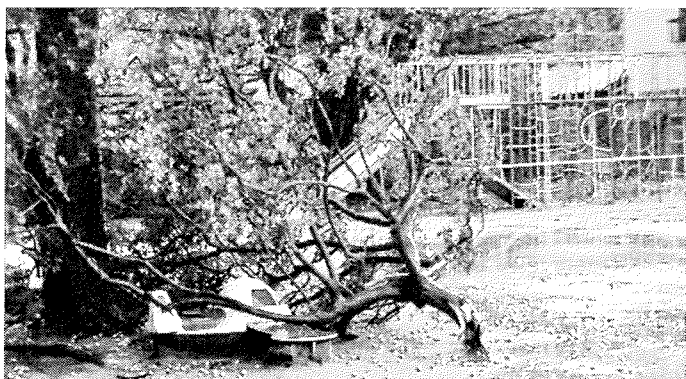
て、4歳児も野菜・お肉などの栄養素や味噌汁づくりなどを学びました。好き嫌いなく何でも食べて健康な体づくりに取り組んでいます。

また、5歳児は「お泊り保育」も行いました。川遊びやお菓子作りなど行い、夜には園庭でキャンプファイヤーや花火大会を行い、こども園での思い出を作っていました。みんなで協力し助け合う心が養われました。

7月6日には、今までに経験をした事のない大災害を受けました。前日から降り続けた大雨で3階北側ベランダから水が浸入し、赤1・青1・青2組の保育室が水浸しとなりその水が、2階・1階へと伝わり床上浸水になりました。電気はつかず、天井が剥がれ、シミがで、今なおその爪痕が残っています。

また、9月の台風21号では、桜の木が傾き、さるすべりの大木の枝が吹っ飛んでいきました。自然の偉大さに気づかされた出来事でした。

園児たちに危害がなかった事に一安心しました。



さるすべりの大木が飛ばされました



保育室に水が流れ込んできました

児童発達支援 いっぽ

折り返し

保育士

奥 克至

新年度が始まり4ヶ月が経ちました。4月からいっぽに通い始めた子ども達も少しずついっぽでの生活に慣れてきています。この4か月の間にも新しく通い始めてきた子どもも数名おられ、賑やかさが増えています。

7月から始まった水遊び。大好きな子どもはおおしゃぎ！全身で楽しんでいます。その傍らで、顔や頭が濡れるのが嫌なお子さんは早く出たような様子。大泣きするお子さんもいました。そんな様子でも玩具や寒天など興味のある物で誘うと、少しずつではありますが、自分から遊びに入る事もできています。今年の夏は昨年比、非常に暑い為、屋内でプールに入る事もありますが、それでも子ども達の笑顔は変わらず、輝いていました。

また、並行通園のクラスの子も「児童発達支援ばんび」さんとの交流で仔鹿園のプールにお邪魔させ

ていただき、大きいプールに入る事が出来ました。幼稚園よりも大きなプールに子ども達は大喜び。のびのびと遊ぶことが出来ました。

今年度も折り返して、後半戦が始まります。子ども達がいっぽでの毎日をパワー全開で楽しめるように、保護者の方も安心して通わせることができるように、私たち職員一同、心の帯を締めなおして関わっていきます。



広いプールは気持ちいいな～

平城児童センター

おたべ手作り体験

センター長

徂 徠 おさむ

センターでは毎年、小学生会員の社会体験としていろいろな伝統工芸体験の取組を行っています。

今年は9月2日に京都おたべ本館での生八つ橋の「おたべ手作り体験」に14名が参加しました。



おたべ うまくできたよ！

最初にお店の方から八つ橋は八橋検校に由来することや「つぶあん入り八つ橋」誕生のお話をしてもらいました。

おたべ作りに使う材料は米粉、砂糖、水、につき、きな粉、あんこです。米粉はこしひかり、水は名水百選に選ばれている福井県の「瓜破の水」を使用しているとのこと。

手作りの作業はまず米粉に水を入れゴムベラを使いよく混ぜ、次はせいろに入れます。蒸している間に工場見学に行き、作業工程を見学し説明を聞きました。その後できたばかりのおたべを試食しました。

体験に戻り蒸しあがった生地を砂糖と混ぜ合わせますが時間をかけると固くなるので素早く行う必要があります。蒸された生地はとても暑く、方々から熱いとの声がありましたが熱心に取り組んでいました。その後に生地につきを合わせてから手のひらでつぶすようにのばし、さらにめん棒で少しずつ伸ばし平らにし四角にします。きれいな正方形に切り、あんこを包んで三角形の形にたたむとおたべの完成です。1時間20分程度の作業でしたがいろんな形のおたべができお抹茶を自分で点てる体験もして美味しくいただきました。

電車の乗り換えなど移動が大変でしたが楽しい一日を過ごすことができました。

極楽坊保育園

日よけの下でプール遊び

副主任保育士

中 美恵

6月21日、プール開きの日を迎えました。元興寺より辻村泰道副住職様に来て頂き、辻村泰俊副園長と一緒に「けがや事故なく、安全に水遊びが楽しめますように」とご祈願していただきました。色とりどりの水着を着た子どもたちは、しっかりと手を合わせてお祈りができました。

今年は梅雨明けが早く、雨の心配をすることもほとんどなく、毎日子どもたちの歓声が響いていましたが、気温が30度を超える日が続き、毎日のように熱中症報道が届いていました。それを受けて、小学校から暑さ指



4・5歳児 プール遊び

数が31度を超えると、戸外での遊びはもちろんのこと、気温が高いと水の中でも脱水症状を起こし、熱中症になることがあるので、プール遊びも中止になるという連絡がありました。

子どもたちが楽しみにしているプール遊びです。園では「何とか工夫して環境を整え、プール遊びが楽しめるように」と、プールの上に日陰を作り、少しでも直射日光を避けることができるようにと、日よけをつけることにしました。日よけの下では、暑さ指数は1～2度低くなり、快適にプール遊びができます。子どもたちからは「まぶしくない」「きもちいい」とうれい声が聞かれ、予定通り8月末まで安心してプール遊びを楽しむことができました。

9月も暑い日が続きそうですが、子どもたちが伸び伸びと活動できるように、環境整備を心がけたいと思います。



2・3歳児 プール遊び

いこま乳児院

第62回 全国乳児院研修会に参加して

保育士

大江 智美

今年7月に山梨県で開催された全国乳児院研修会に参加させて頂きました。

私が参加した分科会では、「育ちが気になる子どもの養育と親子関係の再構築支援」というテーマでした。乳児院への入所が年々、健常児だけではなく、少し発達が遅かったり、病虚弱児や医学的疾患を持った入所児が増えており、乳児院に求められてくるものが少しずつ変化しつつあると学びました。

また、乳児院における養育の原理（養育指針）で大切な事項がいくつか挙げられた中で、私が一番印象に残った事項は「個別的養育」という項目でした。「子ども一

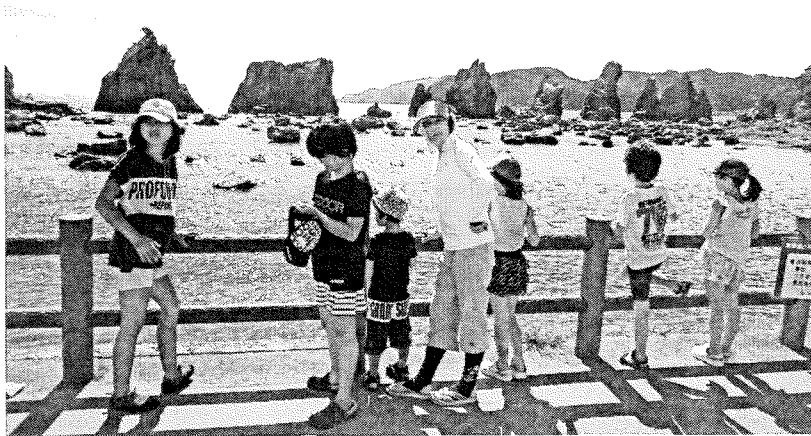
人ひとりに合った関わりを、その子の発達レベル・特性に応じて関わっていくこと」という内容で、病虚弱児や医学的疾患を持った入所児が増えている中で、どれだけ専門的な知識や経験を活かして関わられるかが重要になってきます。しかし実際は、そのような子どもたちが入所して来ても、専門的な知識や経験のある職員が少ないことから、きちんとアセスメントができなかったり、人材不足で本来、職員がしたいと思っている関わりができなくなってしまったりすることが現状です。

従って、「乳児院における養育の向上と支援の充実」がこれからの乳児院にとって重要になってくるのではないかと思います。その為に大切になってくることは、関わりの難しい子どもはもちろんのこと、どんな子どもに対してでも個別養育がしっかりと出来るように、一人ひとりの職員のスキルをしっかりと上げていくことだと思います。私自身もこれから様々な研修に参加させて頂く中で、新しいことを学び、現場で活かしていきたいと思っています。

愛染寮 平成30年度 海への里帰り報告

暑い、熱い、篤い！ 今年のお海への里帰り！

南紀白浜アドベンチャーワールドのアイドル、エイビシ



橋杭岩海水浴場にて！

今年のお海への里帰りは、和歌山県の串本方面へ行きました。お盆と時期が被っていたこともあり、出発の日は大渋滞に会い、6時間かけて和歌山の白浜まで移動しました。お昼にありつけたのはようやく午後2時過ぎ。長時間の移動で子ども達も、とてもお腹を空かせていたので、昼食で食べた海鮮丼は、とびきり美味しかったです。お世話になったホテルでも、新鮮なお魚や、豪華なご飯をいただき、お腹も心も大満足な3日間でした。

2日目には、串本の海水浴場で一日お海を楽しみました。今回のお海への里帰

りでは、2年前の宮古島で、惜しくも強風のため途中で中止を余儀なくされたシーカヤックに再チャレンジするはずだったので、またまた風が強かったため、残念ながらさらに持ち越したとなってしまう。しかしそのお蔭で？ハリセンボンやたくさんのお二を網でゲットしたり、海中公園へ行ったりと、天気はとも良かったため、子ども達は晴れ渡る空の下で思う存分楽しむことができました。

3日目は、アドベンチャーワールドに行き観光を楽しみました。普段見ることのない、パンダやイルカショーを間近で見ることができ、子ども達はとても喜んでいました。帰りには、それぞれ気に入ったグッズを買い大満足な様子でした。

今年も皆様の篤く温かいご支援により、お海への里帰りに行くことができ、子ども達にとっていい夏の思い出となりました。本当にありがとうございます。

(保育士 松本冨加)



哀愁漂う男の背中...

お海への里帰り支出報告 (平成30年4月1日～9月7日)

収入	ひめゆり基金からの助成金	500,000円
	愛染寮自己負担分	117,061円
	合計	617,061円
支出	お海への里帰り(愛染寮)	617,061円

*今回ひめゆり基金に1,943,000円の温かいご支援を賜りました。愛染寮機関誌「すず」にてお名前を記載させて頂いております。尚、残りは基金に積み立て、今後進学予定の児童への費用等に充てさせていただきます。ありがとうございました。

- ◆日時 平成30年8月13日(月)～8月15日(水)
- ◆行き先 和歌山県串本方面
- ◆宿泊 ホテルサブマリン宿泊
- ◆参加者
 - 職員 5名
 - あすなろ会員(ボランティア) ... 2名
 - 児童 16名
 - 計 23名

ステップアップ研修

法人内の職務階級に応じて開催している研修のうち、毎年開催の「ステップアップ研修」の様子をお知らせします。



グループワーク

◆ステップアップ研修報告

(7月5日)

「アセスメントの基本姿勢と記録の取り方を学ぶ」ということを目的として、中堅職員を対象にさらなるレベルアップを図るために、養護老人ホーム梅寿荘 松岡利和施設長が講師となつて研修を行いました。

17名の職員が参加し、対人援助の基本を学んだあと、福祉におけるアセスメントとはどのようなものか、さらに深く掘り下げて講義を受けました。アセスメントとは、対象者の課題把握であり、それは児童・障害者・高齢者全てに共通するものです。支援を必要とされる方の背景や課題、その人自身の思いを聞き取り、課題把握・課題分析をしながら、専門職としてどのように関わっていくかを学びました。また、対象者を支援していくためには、本人の強み（ストレングス）を発見していくことも大切です。その強みを活かしていくことで対象者自身が自信を獲得していくことに繋がっていきますし、それを支援していくことは児童・障害

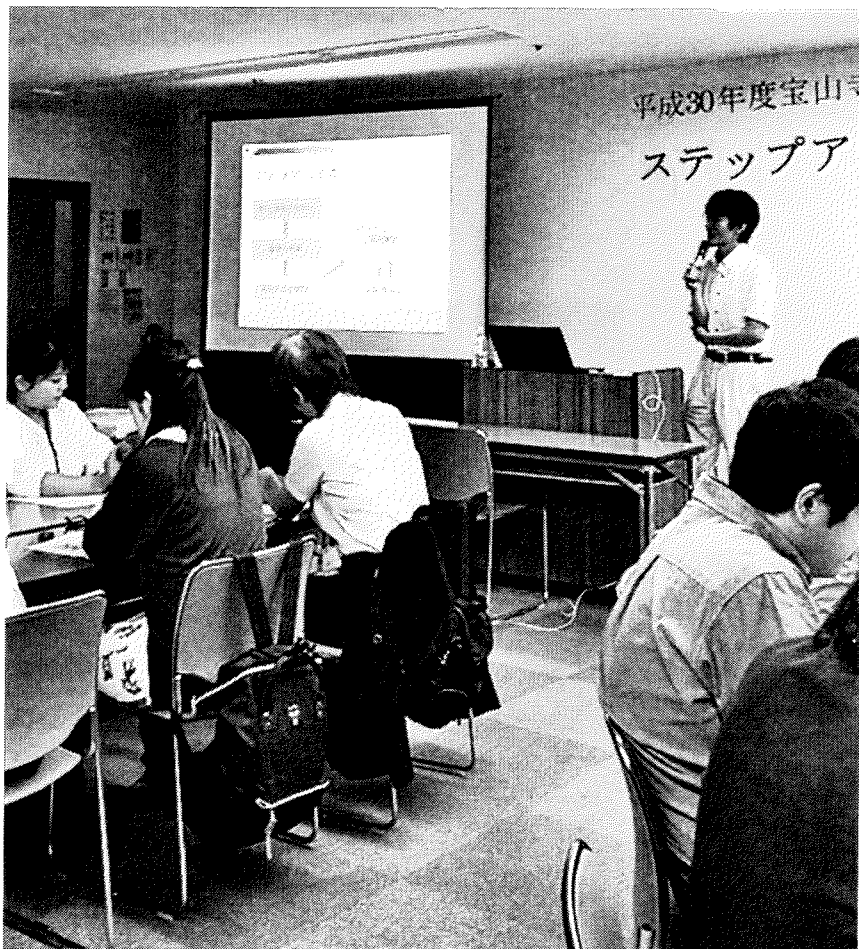
者・高齢者全てにおいて大切なことだと学びました。

グループワークでは、誰もが知っている国民的人気のある某アニメの映画のワンシーンを使用されました。登場人物であるNび太君の思いや考え、強みを話し合い、ディスカッションを繰り返して広げていきました。私も含め、参加していた職員は、改めてNび太君を深く考察し、本人の思いや考え、弱みや強みについて考えさせられました。各グループには、様々な分野の職員が参加していましたが、誰もがなじみのある

ものを教材として使用された為か、活発な忌憚のない意見や議論を交わされていきました。

今回も児童・障害者・高齢者の様々な分野で、また現場で直接支援に当たる職員や相談員、支援員などの多職種にわたり参加しましたが、意見交換や情報交換を行いながら、チームでの情報共有や、関係性を構築する大切さを学び、お互いに刺激を受けながら共通理解を深めていたようです。

研修委員 あくなみ苑 小森康志



松岡施設長より講義

平成 30 年度法人衛生管理研修会を終えて

延寿 管理栄養士 上山紗依里

平成 30 年 6 月 1 日（金）に生駒市コミュニティーセンターにて「平成 30 年度法人衛生管理研修会」を開催しました。気温や湿度が上がり細菌性食中毒が発生しやすい夏場を前に、毎年この時期に給食業務における衛生管理の基本や食中毒について勉強しています。今回は「みんなで防ごう食中毒」というテーマで講師をサラヤ株式会社の木村恒太先生にお願いし、各施設から調理師や調理員、栄養士が集まりました。

講義では、最近の食中毒発生状況や食中毒の原因となる細菌やウイルスの特徴について学び、次に食中毒を防ぐために具体的にどうすれば良いのか、手洗い、手袋の着脱、器具の洗浄・殺菌、異物混入など、毎日の作業の中にひそむ食中毒のリスクとそれを防ぐための方法などを学びました。

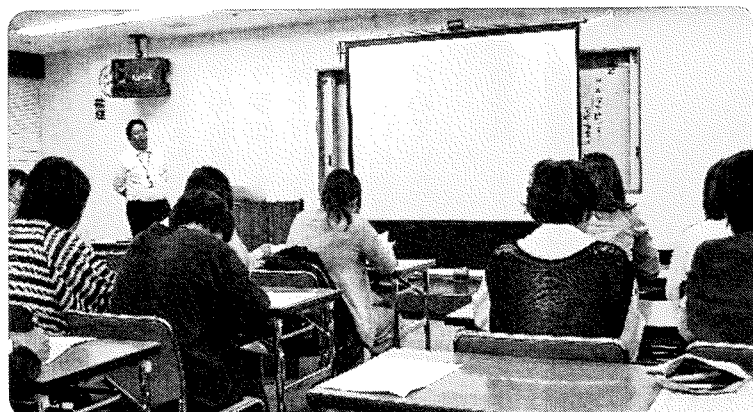
例えば、作業中に何度も行う「手洗い」の手順は、薬用石鹸を泡立てた後、手の平と手の甲→手の平と手の平→指の間・股→親指→爪先→爪ブラシ→手首、を左右それぞれこすり擦り合わせるように 30 秒かけて洗う、と決められています。このように手順が細かく決められていることには理由があり、汚れは指先や爪、指の付け根、シワの部分に残りやすく、サッと水で流すだけでは汚れが落ちず、汚れが落ちていない手にアルコール消毒をしても十分な消毒効果が得られないから、と学びました。参加者のアンケートに「毎日の作業の見直しができる勉強になった」などの感想があったように、日頃行っていることが「正しく」行えているのかを振り返り、手洗いの手順のように一つ一つのルールの意味を改めて理解することができました。

どんなに美味しい食事を提供していても、安全な食事でなければ意味がありません。いつもの同じ作業だからと油断したり、小さな横着によって思いもよらない食中毒が起こる可能性もあります。正しい衛生管理の方法を繰り返し学ぶことで知識を積み上げ、慣れた作業こそルール通りに確実に行わなければ、と気が引き締まる思いです。

最後に、ご協力いただいた講師の木村先生にお礼を申し上げるとともに、業務終了後にもかかわらずたくさんの方にご参加いただき研修会を開催できたこと感謝いたします。ありがとうございました。



講義の様子



先生からの質問に考え込む場面も…



バイバイ！バイキン軍団

新人職員交流会

法人研修委員 梅寿莊 主任生活相談員
今井 康順



厚生労働省が調査した『新規学卒者の離職状況』によれば、新規高卒就職者の40%以上、新規大卒就職者の30%以上が、就職後3年以内に離職していることが数字で出ています。

このような状況は福祉業界にも言えることで、せっかく入社しても、辞めてしまうという事実は決して少ないとは言えず、新人職員の人材育成の過程において何らかの対策が必要であると考えられます。

仕事を始めると、やりがいを感じることも多くありますが、それ以上に辛いことやどうにもできないことなど様々な壁にぶつかります。その結果、自分の思い描いていた理想と現実のギャップに悩み、最悪の結果として退職を選択してしまうことがあります。そのようなことから、退職を判断するまでに何かできることがあれば退職者を減らすことができるのではないかと考えられます。

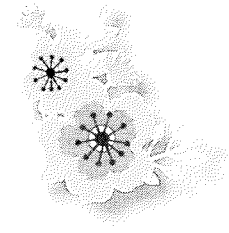
そのような課題を解決していく方法としまして、今年度新たに採用された正規職員を対象として、配属後3カ月が経ち、ようやく施設の業務に慣れてくる頃に、同期採用の仲間が集まり、日ごろの思いや悩みを語り合い共有することで、仕事の活力と意欲に変える機会にしていきたいという目的から昨年度より開催しております。

開催におきましては、新人職員にとって身近な存在であるリクルーターが、会の準備や進行を行ないました。リクルーターとは、法人の若手職員を

中心とした採用担当者で入社志望者と直接コンタクトを取ることを目的として選ばれた職員のことです。

今年度は8月17日(金)の夕刻よりバーベキューを通して飲食を共にしながら情報交換を行ないました。当日は新人職員18名が集まり、野外でのバーベキューということもあり、その開放感やリクルーターの演出により、最初は緊張感が見られたものの、先輩職員が輪に入ることでも和やかな雰囲気となり、会話も次第に盛り上がっていききました。情報交換の内容も様々で、日々の仕事の悩みから、プライベートのことなど話題が尽きることはなく、大いに盛り上がりました。

福祉の仕事は対象者が「人」であります。ご利用者やそのご家族との関わりや仕事を行う上でもチームの連携が必要不可欠となります。そのような人間関係の渦の中で、ストレスを強く感じることもあります。反対に人との関係性に救われることも多くあります。人間関係を良い方向に導くことで、離職率の低下につながるのではないかと思います。職員の士気を高めることができる「モチベーション研修」を今後も提案していきたいと思っております。



第22回 宝山寺福祉事業団 研究発表会のお知らせ

私たち職員は常日頃、子供たちやご利用者の方々に笑顔で過ごして頂けるよう職員研修の機会を設けています。ただ、聞いて持ち帰るだけでなくどのように現場で生かすのか、実践に生かしてこそその研修だと思えます。

今回は3施設がその発表を致します。

「学びを実践に」

— エンジョイ・エブリディ！！ —

平成31年1月27日(日)

会場 生駒市コミュニティーセンター 文化ホール (セイセイビル)

時間 午後12時45分開始 午後4時30分終了予定

第1部 職員による発表

発表1 愛染寮

じぶんの気持ちとひとの気持ち

～「セカンドステップ」に取り組んで3年～

発表2 あすかの保育園

「楽しいあそび・豊かな育ち」～七感を使って～

発表3 いこまこども園

「メンター制度を取り入れた 職員育成」

～見守りの中での人育て～

発表4 法人各施設のポスターセッション

第2部 《さわむらしげはる と にこにこ楽団》

～笑顔がつながる うたあそび・おとあそび～

*現場でも生かせるうたあそびやおとあそびで楽しい時間をすごしましょう

【お問い合わせ先】

社会福祉法人 宝山寺福祉事業団事務局 URL : <http://hozanji-wel.org/>
TEL 0743-74-1172 FAX 0743-74-1911 〒630-0257 生駒市元町2丁目14番8号

編集後記

今年は、元興寺創建1300年、生駒ケーブル創設100周年、高校野球第100回目夏甲子園大会開催とメモリアルな年ですが、6月に大阪府北部地震、夏の猛暑や9月の最強台風と良くも悪くも記憶に残る、記録に残る年になりそうです。

我が家の屋根も台風で一部損壊し、屋根屋さん待ちの状態です。生駒は大した影響もなくいい所だと油断してしまいましたが、備えが必要と思いました。まだ10月も台風シーズンです。これ以上記録更新にならぬことを祈るばかりです。

さいとう